

「2015年浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学農学部1年 石川 凜

中国語は初級第二外国語で一年間学習していたのですが、読むことはできてもまだまだ十分に話したり聞き取ったりすることができておらず、ぜひ今回のプログラムで中国語を少しでも聞き取ったり簡単な会話ができるようになりたいという思いで今回参加させていただきました。私が配属されたクラスはだいぶクラスの中でレベルが低いほうだったので文法的には問題なかったのですが、リスニング、スピーキングとなるとなかなか難しかったです。今回のプログラムの授業では、簡単な日常会話やリスニングなどを学びました。生徒一人一人を指名して話させたりすることも多く、緊張感を持ちながら授業に参加することができました。簡単な会話を留学生の間でしたり、店員さんに話しかけたり、中国人の話すことも単語レベルでは時々聞き取ることができるようになりました。

今回行くのは上海でも北京でもないということで田舎なのかなあと思っていたのですが、杭州は行ってみたら高いビルが立ち並んでいて、車やバイクの数も多くとても栄えていて驚きました。ただ、まだまだ日本のように整備されていない部分も多いなあという印象を持ちました。例えば、車やバイクなどが信号を守っていなかったり制限速度を明らかに超えるスピードで走っていたりといったように交通ルールの面や、飲食店に入った際に食器やテーブル、床などが汚れていたりといったような衛生の面など、やはりまだ日本よりも遅れていると感じました。今回、中国人だけでなく他の国から来た留学生たちとも交流を深めることができたのが本当に良かったです。様々な国の人がいて、人それぞれ違う文化を持っているけれど、それでもやっぱりみんなひとりの人間という同じ生き物であると感じられました。

今回のプログラムは、基本的には平日は午前中に中国語の授業、午後には文化研修、週末に観光という形でした。中国語の授業については上記の通りですが、文化研修においては浙江大学の学生とプレゼンテーションとディスカッションをしようという形のものや、現地の中国人の講師の方に中国という国について教えていただいたりしました。また、自由行動の時間には大学周辺の町を散策してみたりして、その中でも多くの気づきを得ることができました。例えば私は農産物の流通や販売に興味を持っていたので、スーパーに並ぶ野菜の鮮度がとても落ちていたり、肉をその場で解体して売っているような場面を見たりすることができたのがとても面白かったです。週末の観光では、上海や蘇州に行きましたが、上海ではその発展ぶりに驚かされ、蘇州では中国の持つ長い歴史を感じる事ができ、中国の2面性を感じる事ができました。

私は今回海外に行くのが二度目で、中国に行くのは初めてのことでした。私はもともと食糧問題といったことに興味があり、また海外における食べ物に対する認識といったことにも関心を持っていたので今回のプログラムの中でも食・農業といったことに注意して2週間を過ごしました。その中で気づいたのは、中国の都市部では飲食店の段階における食品廃棄が非常に大きいということ、それから中国にはまだ伝統的な農業や流通・販売の仕組みが残っているということです。今まで農業や食に関する問題について、漠然と世界は～というように考えていたけれど、もちろんその各国における状況というのは様々なので、ぜひこれからは一国一国についてしっかりとみていきたいです。また、今回学んだ中国語をこれからも学んで、国際社会に出ていくのに役立てたいです。

今回のプログラムは2週間ととても短く、もっと多くの中国人学生やそのほかの留学生と交友を深めたかったと感じています今後、ぜひ長期の留学もして、よりほかの国のことを深く知ることができたらと思います。